

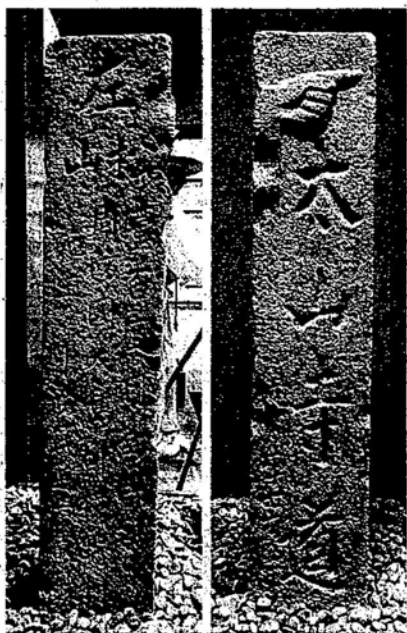
えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑧

松山市に所在する四国霊場の51番札所の石手寺から52番札所の太山寺(たいさんじ)へ向かう遍路道沿いの寺井内川には、かつて上市「太山寺道」是ヨリ六十七(かみいち)橋があった。こ「丁余」、左面に「左 松山

中務茂兵衛建立の遍路道標石

巡拝280回足跡を物語る



太山寺道に建てられた中務茂兵衛の遍路道標石(正面・左面)。県歴史文化博物館の民俗展示室3「四国遍路」で常設展示中(現在は臨時休館中) 同館蔵

壹(いち) 百度目為供養 建てたものだと思われる。

周防国大島郡椋野村 施 中務茂兵衛は本名中司龜

主 中務茂兵衛義教、右 吉、法名は義教。親兄弟に

面に「中務氏先祖代々 明 結婚を反対されたことがき

治廿(にじゅう) 一年戊子 っかけとなり、故郷を捨て

(つちのえね)五月吉辰(き 生涯を遍路に身を投じ、四

っしん)建之、裏面に「う 国遍路を280回も巡拝

まれきてのこるものとて石 し、四国中に数多くの道標

ばかり、我身は消へしむか 石を建てるなど、人々に「生

しなりけり」とある。 き仏」として慕われた。裏面

それによると、この道標 に刻まれた自詠歌「うまれ

石が建つ地点から、太山寺 きて「は、まさしく道標石

までの距離は67丁余(約7 の建立に生涯をささげた茂

キ弱(一丁は約109尺) 兵衛の心境を表している。

で、行き先を指印で分かり 明治以降、道路拡幅や新

道開通など、遍路を取り巻

く交通環境も大きく変わる

中で、遍路道を整備し、近代

の四国遍路の発展に多大な

貢献をした茂兵衛の足跡を

物語る貴重な資料といえる。

筆者が執筆した「道標石

から見た四国遍路」が掲載

された愛媛大学四国遍路・

国大島郡椋野(むくの)村 世界の巡礼研究センター編

(現山口県周防大島町)の 『四国遍路の世界』(筑摩

中務茂兵衛(1845~1 書房)が10日に刊行された

922年)で、1888(明 ので、あわせてご覧いただ

治21)年5月、自身による きたい。

四国遍路100度目の成就 (専門学芸員・今村賢司)

を記念して先祖供養のため (8月2回掲載します)